

審議会等の会議結果報告

1 会議名	令和6年度第1回津市地域自立支援協議会
2 開催日時	令和6年5月24日(金) 午後2時00分から午後3時40分まで
3 開催方法	会場開催
4 開催場所	津センターパレス2階 津市中央公民館情報研修室
5 出席した者の氏名	(津市地域自立支援協議会委員) 遠藤、越知、金児、菊池、小柴、後藤、小西、高鶴、藤川、 又市、水谷、村田、横山、渡邊 (事務局) 障がい福祉課長 堀川 障がい福祉課調整・障がい福祉担当主幹 松長 障がい福祉課障がい福祉担当主幹 川端 津市基幹障がい者相談支援センター 増田
6 内容	議事 1 会長・副会長の互選について 2 令和6年度障害者差別解消専門部会委員の選出について 3 令和6年度地域生活支援拠点・基幹型相談支援センター 整備検討委員会委員の選出について 4 令和5年度各種事業等の実績報告について 5 令和6年度事業計画について 6 その他
7 公開又は非公開	公開
8 傍聴者の数	2人
9 担当	健康福祉部 障がい福祉課 障がい福祉担当 電話番号 (059)229-3157 E-mail 229-3157@city.tsu.lg.jp

1 開会・体制・役員選出

(1) 開催・公開

- ・ 傍聴 2 名を許可。
- ・ 情報公開に基づく運営（議事録は市 HP で公開予定）。

(2) 委員改選・出席

- ・ 任期 2 年（令和 6 年 5 月 1 日～令和 8 年 4 月 30 日）。委員 18 名（留任 13・新任 5）。当日出席 14 名で成立。
- ・ 事務局・関係職員の紹介。部長・次長より挨拶（計画期間 R6～R8 の総合プラン進行管理など協議依頼）。

(3) 役員選出・会議体

- ・ 会長・副会長を互選で選出（事務局案で承認）。以後の議事は会長が進行。
- ・ 設置要綱の確認（構成、任期、会長・副会長の選出、成立要件、専門部会設置規定）。

2 専門部会・整備検討委員会の体制と昨年度状況

(1) 障害者差別解消専門部会

- ・ 法に基づく地域支援協議会に相当。R5 年度は部会開催・相談ともに無し。
- ・ 市職員向けの差別解消法改正の動画研修を実施（YouTube 活用、受講約 3,200 名）。
- ・ R6 は本会後に 1～2 回開催予定。委員名簿案（12 名）を承認。

(2) 地域生活支援拠点・基幹型相談支援センター整備検討委員会

- ・ 拠点の 5 機能のうち「相談・緊急受入」は R4 から運用。緊急受入実績 0 件、登録者 22 名（増加中）。
- ・ 今年度は「体験の機会・場」「専門人材の確保・養成」「地域の体制作り」を優先的に協議。
- ・ 基幹・地域相談支援センターは R31 開始、現委託の 5 年優先選定が R6 で満了。R7 以降の委託の方向性や選定方法を検証・協議へ。
- ・ R6 は年 2 回開催想定。委員名簿案（7 名）が承認。協議会終了後に第 1 回を開催。

3 令和 5 年度実績・令和 6 年度計画（WG 会議・虐待・相談・就労）

(1) 令和 5 年度ワーキンググループ会議実績

- ・ しごと WG（3 回）：就労機関連携、特別支援学校との連携検討。第 3 回は講演・ロールプレイ・パネル（参加 78 名）で「準備～定着」を学習。
- ・ 精神保健福祉 WG（3 回）：精神科訪問看護を軸にニーズ把握、法改正の学習、はっぴいの一との活用検討。

- ・ 地域移行 WG (3 回) : 入所施設の現状共有、アンケート結果の意見交換、社会資源オンライン見学(市内外、拠点)、県の入所調整制度課題の共有。
- ・ 地域課題 WG (3 回) : 庁内各部局・計画相談・社協と横断で課題共有。体験・人材・体制作りの検討、ひきこもり相談窓口の意見交換など。

(2) 障害者虐待防止対応 (R5)

非公開

(3) 相談支援の実績

- ・ 基幹障がい者相談支援センター (R5) : 総支援 4,715 件。機能別 (体制強化、権利擁護、地域移行・定着、協議会、個別、その他)。人材育成研修 4 回 (障がい年金、生活保護、外国人相談、医療的ケア児者連携)。事例検討 (高次脳機能障害と同時開催)、相談支援従事者の集い実施。初任者・現任者研修の実習 (11 月・1 月)、現任はしごと WG 第 3 回と連動。
- ・ 地域障がい者相談支援センター (R5) : 総支援 7,586 件、実人数 371 名。精神が最多 (241)。地区は旧津が中心。内容は福祉サービスが最多 (3,316)。手段は電話 5,576、訪問 515 等。

(4) 就業・生活支援センターの実績・傾向

- ・ 登録 710 名 (年 60~80 名の新規、同程度の離脱ありつつ増加傾向)。精神 (発達含む) が知的を上回る状態が継続。
- ・ 支援件数 3,635 件 (1 件あたりの深掘り・長時間化で件数は横ばい~微減)。定着支援の職場訪問が増 (コロナ後の現場支援再開影響)。
- ・ 求人はコロナ禍で減少したが就職件数の落ち込みは限定的。近年は「すぐに就職が難しい」層が増え、相談支援事業所との連携強化が重要。
- ・ 国からはネットワーク構築・地域の就労体制整備 (基幹的役割) の強化を要請。関係機関連携を一層推進。

(5) 委員からの主な質疑・意見と事務局応答

- ・ 就労 : コロナ禍は求人大幅減も就職は大きくは低下せず。現場訪問支援は回復。
- ・ ひきこもり : 担当部局 (援護課) 側の相談で約 20 件把握 (協議会側の受理ベース)。
- ・ 地域移行 : 自然減に加え、日中サービス支援型 GH 等を資源として具体化。数値目標・待機者への影響も踏まえ、WG で検証・評価を継続。入所はゴールではない旨の周知・体制強化。
- ・ 医療保護入院時の付き添い等「隙間」課題 : 家族不在・人員制約下の対応が困難との現状共有。今後の議論継続を依頼。
- ・ こども領域 : WG に子ども視点が薄いとの指摘。人材育成 WG は全世代を対象にし、こども家庭センター等との連携・会議体のすり合わせを検討。

(6) 令和 6 年度の事業計画（体系・日程）

- 体系：本会、差別解消専門部会、整備検討委員会、事務局、WG 会議。
- WG 会議：しごと、地域移行、精神保健福祉を継続。新設「人材育成 WG」を中心課題に据え、初任者・現任者研修を一体的に運営。就労体制では「津市を障害者雇用で輝かせる会議」（8 月目途）と連携検討。地域移行 WG で日中サービス支援型 GH の評価・活用を推進。精神 WG は県「こころつむぎネット」と連携。
- 開催見込み：本会は 5 月（今回）、次回 10 月、最終 2 月を想定。部会・整備委は本会後に開催。